

廃業した旅館を活用した温泉宿の 開業に向けた伴走支援

課題

旅館経営未経験者の円滑な 開業に向け綿密な創業計画策定が必要

2019年4月、青木村の「沓掛温泉」に誕生した温泉旅館「叶屋」は、自炊可能なキッチンを整備。素泊まり客を対象にした夫婦のみで経営する6部屋のみの小さな宿だ。

経営者もともと旅館経営の経験はなかったが、自身の温泉好きもあって、旅館経営を模索していたところ、縁あって閉館となっていた旅館の活用を紹介された。経営者自らが各地の湯治宿を巡った経験から、宿泊者が自炊のできるキッチンを整備し、長期の湯治客などを受け入れる旅館経営を商機と捉え、開業を決意、2018年に青木村商工会に相談。商工会からは創業計画書の作成支援や旅館取得のための金融支援、開業の際に必要な各種届出などの支援を行った。経営者自らも投資金額を抑えつつ手づくり感と温かみを兼ね備えた、キッチンをはじめとした館内施設を自前で整備するなど創業準備を進め、翌年、円滑に旅館経営をスタートすることができた。

支援

ターゲットやプランを見直し 日本人客向けに変更

綿密な創業計画が功を奏し、開業後は、割安な価格設定と当旅館の特徴に魅力を感じる日本人観光客など順調な集客に成功した。ただ、いざ経営してみると、旅館経営未経験者であるが故のさまざまな疑問も生じたため、商工会からの提案を含め各種支援を実施した。

具体的な支援内容としては、宿泊価格の見直しにともなう価格の妥当性に関する相談や冬季の暖房費の顧客負担に関するアドバイスなど細部にわたり、結果として館内を基本的にセルフサービスにすることで宿泊価格を1泊3300円(税込)という周辺地域随一の低価格を実現しつつ利益を確保できる体制を整えた。

当初、経営者は国内に増加する外国人観光客をターゲットのひとつとしていたため、館内の案内表示を外国語併記にし、外国語に対応したホームページも作成した。しかし、日本人客の集客に成功した反面、外国人客の予約は皆無であったため、ターゲットを日本人客一本に絞り、経営者とともにより効果的な集客方法を検討した。そのほかにも商工会からは、観光庁などの各種補助金の情報提供や集客ツールの活用、



低価格の男女兼用ドミトリールーム

キャッシュレス決済の導入などについてもアドバイスを行った。こうした支援の効果もあって、日本人のなかでも静かな宿を求めるミドルエイジや、低価格に魅力を感じるビジネス客などの長期宿泊者、上田市や松本市への観光客の集客に成功し、開業当初から安定した旅館経営につながっている。また、この宿の開業は、休業していた近隣の飲食店の営業再開など、地域にも波及効果をもたらしている。

ただ、人口減少が進むなか、既存の日本人客だけではジリ貧状態になる恐れもあるため、経営者自らも、何らかの対策をとる必要性は感じている。当旅館を利用する日本人客からは「周りが日本人だけなので落ち着ける」との声もあるため、今後も日本人客をメインに集客を図ることになるが、よりビジネス客の利便性を高め利用を促すため、「クオカード付プラン」などの導入や、冬場の集客に向け、湯治客だけでなく女性客をターゲットにした「女子会プラン」などの創出により、ビジネス客が減るウィンターシーズンの集客の底上げを図ることで、年間を通じた予約の平準化を目指していく。

支援の経過

期間	支援内容
2018年7月～	創業計画書の作成支援
7月	旅館等購入のための金融支援
11月	開業のための各種届出支援
11月～	最適なOTA選択など集客ツール活用助言
2019年4月	開業後のフォローアップ支援

会社概要

会社名：温泉旅館「叶屋」
住所：長野県小県郡青木村大字沓掛428-3
電話番号：0268-49-2004
URL：<https://kanouya-inn.com/>
代表者名：今井大祐
創業年：2019年
従業員数：0名
商工会名・担当者名：青木村商工会・北村仁史